

KATO Masashi

加藤真史 個展

穹窿航路

—蚕神、国境にて変針し利根川を順行す—

2026年2月21日(土)～3月22日(日)

■休館日..毎週月曜日・火曜日、2月25日(水)

(※2月23日(月・天皇誕生日)は開館)

■開館時間..午前10時00分～12時00分(入館11時30分まで)

午後13時15分～17時00分(入館16時30分まで)

■入館料..330円

18歳未満、65歳以上は無料(年齢確認ができるものを提示)

各種障がい者手帳をお持ちの方と付き添い1名無料

イベント情報

- ギャラリートーク 3月1日(日) 14時～15時
加藤真史によるギャラリートークを開催します。
- 街歩きツアー 3月20日(金・春分の日) 13時スタート
申込み2月21日(土) 8時30分から 定員10名まで
※ツアー詳細は3月1日(日)に公開予定。

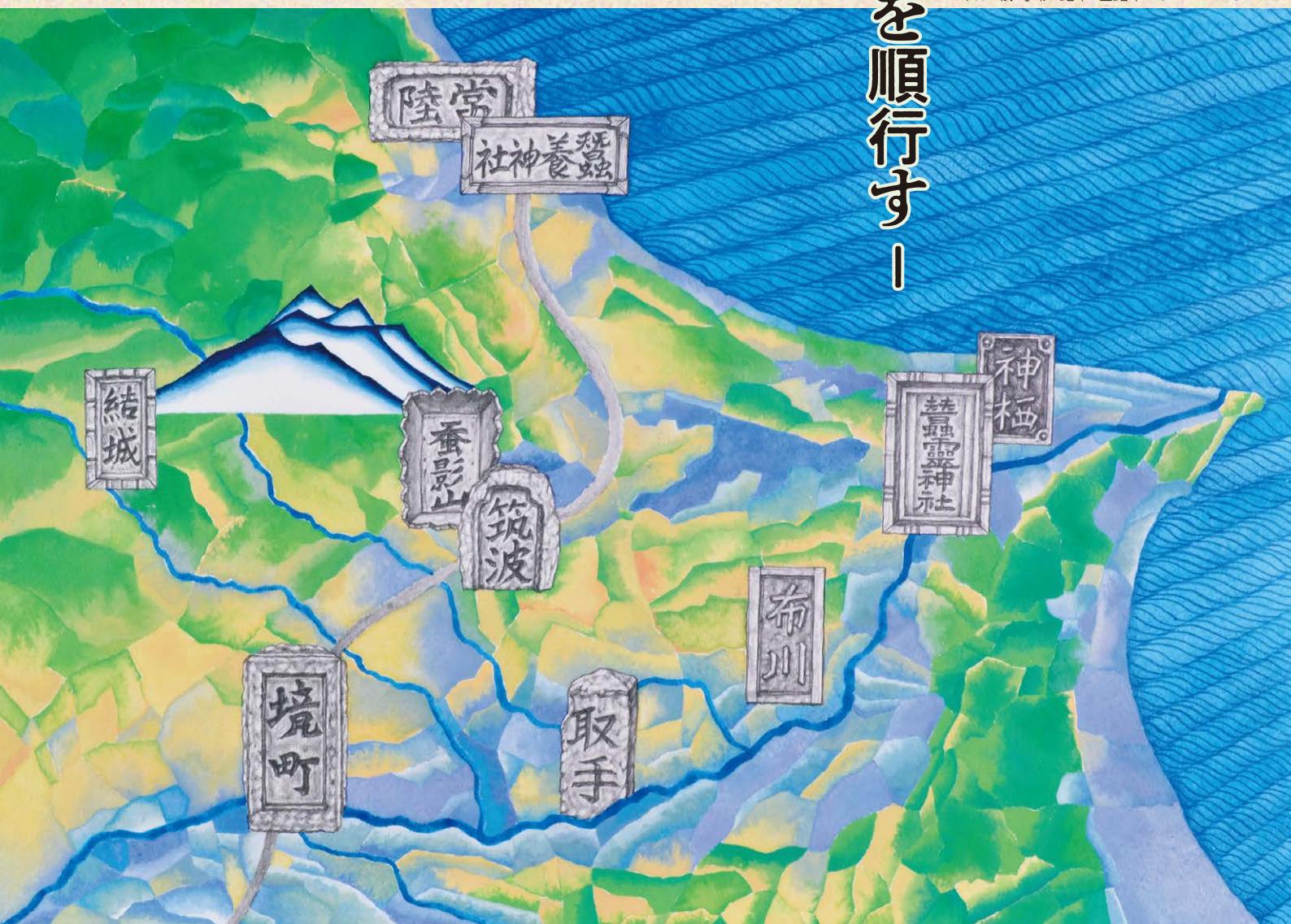


[https://www.town.ibaraki-sakai.lg.jp
/page/page003955.html](https://www.town.ibaraki-sakai.lg.jp/page/page003955.html)

《穹窿航路 參(利根川順行路)》2026
パネル・紙・水彩・鉛筆・色鉛筆 29.7×42 cm

S-Gallery 肅粲寶美術館
しうくさんぽう
主催..境町 企画..境町アートプロジェクト

茨城県猿島郡境町1455-1 Tel..0280-23-4148



ごあいさつ

小道や坂道、川の曲がりや、石垣の高さ。ずっとそこにある石碑…

「郊外・風景・地図・民間伝承」を主題とする加藤真史（1983～）は、実際に街を歩くことで、その地を成す要素を解き明かそうとします。その表現は、時間、土地、人々の営みの重なりとなって私たちの前に現れ、冒険地図の中で現在地を探すような感覚とともに自ずとその土地の記憶へと誘います。

彼の生活圏でもある多摩地方のフィールドワークを進める中で着目した、多摩地方や横浜の歴史と養蚕業の深い交わり。関東平野に形作られた絹の物語に出会うことで、仮設された「穹窿航路」。

その航路上である利根川の河岸境町で「穹窿航路」を眺めるとき、私たちの“見慣れた街並み”が違って見えてくるかもしれません。

（境町アートプロジェクト 山中）

漂着したとされる養蚕の神（蚕神）である金色姫の関東における生糸・絹織物の産地や信仰地などの痕跡を、わたしが追体験として辿り各地の取材を元に仮設した経路である。

それは常陸→筑波→圏央道→「桑都」八王子→絹の道→相模野→横浜といふ、海から来訪してかつては桑海が広がっていた関東平野を渡り海へと帰還する航路だ。

しかし今回の展示では金色姫は圏央道の途上である境町で変針し、利根川の流れに沿て東へ順行するに従つて、鬼怒川、小貝川と合流し、そして神栖において「常陸國三蚕神社」のひとつである蚕靈神社に行き当たる。

利根川に流れ込む鬼怒川は近世以前は「絹川」「衣川」とも表記され、絹織物の一大産地である結城が上流にある河川だ。

そして蚕神・金色姫が漂着したという伝説が伝わりこちらも「常陸國三蚕神社」のひとつである蚕養神社がある現在の茨城県日立市川尻町の小貝ヶ浜と名前を同じくする小貝川は、同じくかつては「蚕養川」「蚕飼川」とも表記された。さらに利根川の上流には高崎・富岡などの養蚕・織物業関連地がある。

利根川はある意味で文字通りの蚕神の「航路」だった。なお「常陸國三蚕神社」最後のひとつは筑波の蚕影山神社である。

そんな利根川の要所である境町は、養蚕に関わるいくつもの河川や路と、う「線」が交わる土地であるといえる。

そこには稻作とともに大陸より伝わったといわれ、万葉集では「筑波嶺の新桑繭の衣はあれど君が御衣あしやに着欲しも」と詠まれるほど古代から関東平野に伝播し、横浜開港以降は外貨獲得のための主要な輸出品として近代国家日本を支え、しかし戦後の高度成長期とともに急速に衰退し現在はほぼ喪われた産業である養蚕に関わる土地をつなぐ「利根川」というかつての動脈上のインターセクションのひとつである。

この展示は2024年より継続している金色姫の「穹窿航路」シリーズの第5期にあたる。数多くの「線」が錯綜する土地であるこの境町において、蚕神のもうひとつの航路を仮設しようと思う。

ステートメント

「穹窿航路」とは古代インドより日本に

漂着したとされる養蚕の神（蚕神）である金色姫の関東における生糸・絹織物の産地や信仰地などの痕跡を、わたしが追体験として辿り各地の取材を元に仮設した経路である。

それは常陸→筑波→圏央道→「桑都」八王子→絹の道→相模野→横浜といふ、海から来訪してかつては桑海が広がっていた関東平野を渡り海へと帰還する航路だ。

しかし今回の展示では金色姫は圏央道の途上である境町で変針し、利根川の流れに沿て東へ順行するに従つて、鬼怒川、小貝川と合流し、そして神栖において「常陸國三蚕神社」のひとつである蚕靈神社に行き当たる。

利根川に流れ込む鬼怒川は近世以前は「絹川」「衣川」とも表記され、絹織物の一大産地である結城が上流にある河川だ。

そして蚕神・金色姫が漂着したという伝説が伝わりこちらも「常陸國三蚕神社」のひとつである蚕養神社がある現在の茨城県日立市川尻町の小貝ヶ浜と名前を同じくする小貝川は、同じくかつては「蚕養川」「蚕飼川」とも表記された。さらに利

根川の上流には高崎・富岡などの養蚕・織物業関連地がある。

利根川はある意味で文字通りの蚕神の「航路」だった。なお「常陸國三蚕神社」最後のひとつは筑波の蚕影山神社である。

そんな利根川の要所である境町は、養蚕に関わるいくつもの河川や路と、う「線」が交わる土地であるといえる。

そこには稻作とともに大陸より伝わったといわれ、万葉集では

「筑波嶺の新桑繭の衣はあれど君が御衣あしやに着欲しも」と詠まれるほど古代から関東平野に伝播し、横浜開港以降は

外貨獲得のための主要な輸出品として近代国家日本を支え、しかし戦後の高度成長期とともに急速に衰退し現在は

ほぼ喪われた産業である養蚕に関わる土地をつなぐ「利根川」というかつての動脈上のインターセクションのひとつである。

この展示は2024年より継続している金色姫の「穹窿航路」シリーズの第5期にあたる。数多くの「線」が錯綜する土地

であるこの境町において、蚕神のもうひとつの航路を仮設しようと思う。

略歴

1983 愛知県瀬戸市生まれ

2012 多摩美術大学大学院美術研究科博士前期課程絵画専攻油画研究領域 修了

[近年の個展]

2025 「八王子ヴェセル - 聚合と伏流、八王子という盆地の舟 -」八王子市中野上町内染物工場跡 ※「八王子芸術祭 2025」での出展
[Sagamino Fabric - 相模野を線で編む -] COMMUNE BASE マチノワ（東京）

2024 「穹窿航路 - 蚕神、彼の地より来訪し桑海を渡り帰還す -」

第1期 横浜市民ギャラリーあざみ野 展示室 2A / 第2期 CRISPY EGG Gallery / 第3期 gallery neo/_Senshu

2023 「Suburban Undercurrent」神奈川県立相模湖交流センター アートギャラリー

「Sagamino Undercurrent - 相模野を潛行する -」CRISPY EGG Gallery

2021 「ATRACE - 垂直の視点の面影 -」CRISPY EGG Gallery ; CRISPY EGG Gallery 2

2020 「Trace the Trace - 僕に踏まれた街と僕が踏まれた街 -」Hideharu Fukasaku Gallery Roppongi

[近年のグループ展]

2025 「八王子芸術祭 2025」八王子市中野・大和田・小宮・石川地域各会場

2022 「Hirasuna Art Movement 2022 パフォーマンス：わたしより大きなりんかくがみえる」つくばセンタービル 1F [co-en]

2021 「TAMA VIVANT II 2021 - 呼吸のかたち・かたちの呼吸 -」多摩美術大学八王子キャンパス アートテークギャラリー

「VOCA 展 2021 現代美術の展望－新しい平面の作家たち－」上野の森美術館

[Art Fair]

2022 「3331 ART FAIR 2022」(CRISPY EGG Gallery より出展) 3331 Arts Chiyoda

2018 「Selected Art Fair 2018 落集衆商」(CRISPY EGG Gallery より出展) スパイラルガーデン

[受賞：入選]

2022 「3331 ART FAIR 2022」コレクタープライズ KaceK 氏 [KaceK賞] ; 馬場兼伸氏 [B2A賞]

2021 「VOCA 展 2021 現代美術の展望－新しい平面の作家たち－」出展

2019 「アーツ・チャレンジ 2019」入選

2017 「第20回 岡本太郎現代芸術賞」入選

◎ギャラリートーク 3月1日(日) 14～15時
加藤真史によるギャラリートークを開催します。

◎街歩きツアー 3月20日(金・春分の日) 13時スタート
申込み 2月21日(土) 8時30分から 定員10名まで
※ツアー詳細は3月1日(日)に公開予定。

<https://www.town.ibaraki-sakai.lg.jp/mailform.php?code=99>

2/21から
読み込み可



《八王子ヴェセル (養蚕信仰地)》2025
パネル・紙・アクリル・水彩・鉛筆・色鉛筆
36.4 × 51.5 cm



《郊外の果てへの旅と帰還 #18 (鍾水)》2025
キャンバス・アクリル 31.8 × 41 cm

イベント情報



※駐車場の詳細はこちらを参照

X (旧 Twitter)
境町自動運転バス
(ARMA)運行情報



自動運転バスの
運行情報は
こちら



S-Gallery 蕣粲寶美術館

<https://www.sakaimachi.jp/shukusampo-museum.html>

茨城県猿島郡境町 1455-1
Tel.0280-23-4148

